

津波に備える

津波に注意する地震は?

強い地震(震度4程度以上)を感じたとき

長い時間ゆっくりとした揺れを感じたとき



津波からの避難のしかたを知っておこう!

地震発生



警報・注意報解除



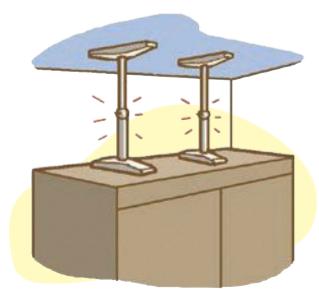
● 非常持ち出し品を準備しておく

常備薬、懐中電灯、ラジオ、乾電池などは非常持ち出し品として準備しておきましょう。



● 摆への備えをしておく

家具の転倒防止対策をしておきましょう。昭和56年(1981年)以前の木造建物は耐震診断を受け、必要に応じ補強などをしておきましょう。



● 安否確認の方法を決めておく

家族の携帯電話や固定電話から使える災害用伝言サービスを調べておきましょう。

NTT災害用伝言ダイヤル171

録音の場合は → 171+1+自宅電話番号
再生の場合は → 171+2+再生先電話番号

● 訓練の必要性

万が一の事態の遭遇しても、落ち着いて適切な避難行動や応急活動ができるように日ごろから十分な訓練をしておくことが必要です。
地域の防災訓練に積極的に参加し、次の点について確認しておきましょう。

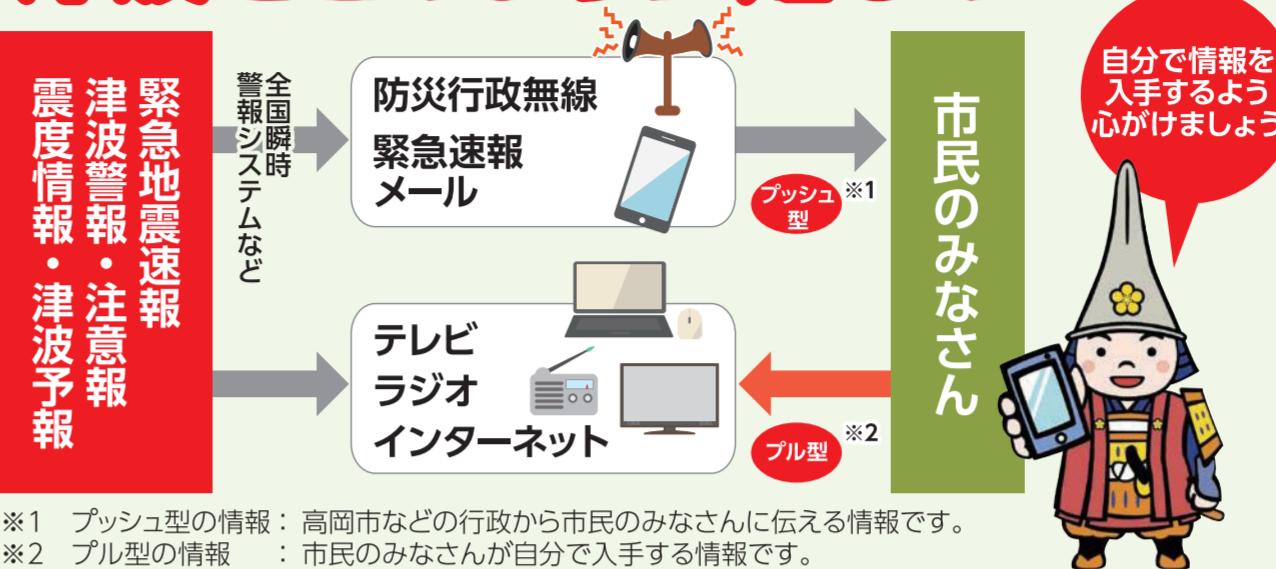
- どこに(避難場所)
 どのように(避難経路)
 家族などとの連絡方法
 避難にかかる時間

● 家族の緊急連絡先

災害時の集合場所		
名 前	緊急連絡先	備 考

津波情報の伝達方法

津波をどのように知るの?



大津波・津波警報、注意報の内容

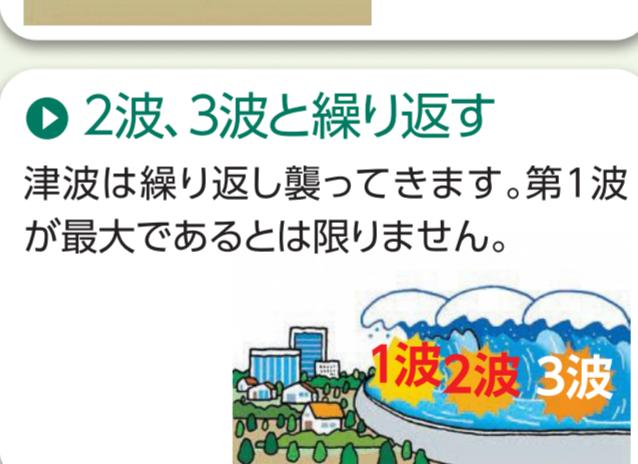
種 類	市の発表	発表される津波の高さ	
		高さの区分	発表する値
大津波警報	避難指示(緊急)	10m～	10m超
		5m～10m	巨大
		3m～5m	5m
津波警報	避難勧告	1m～3m	高い
津波注意報	注意喚起	20cm～1m	—
		1m	1m

地震発生から約3分を目標に発表されます。

津波の特徴

▶ 津波の伝わる速さと高さ

津波は、水深が深いほど早く伝わり、陸地に近づくにつれて波高が高くなります。



▶ 引き波が無くても来る

地震の起こり方や、震源付近の地形によっては引き波が起らないこともあります。



▶ 2波、3波と繰り返す

津波は繰り返し襲ってきます。第1波が最大であるとは限りません。



▶ 津波の高さは想像以上

津波の高さは海岸の地形などに大きく左右されます。



津波てんでんこ

津波てんでんことは、津波がくるおそれがあるときは、家族や親類のことをかまわず、一刻も早く逃げなさいという教訓です。

東日本大震災(2011年)では、津波てんでんこの教訓を基に防災訓練を受けていた岩手県釜石市内の小中学生のうち、当日学校に登校していた生徒全員が生存し「釜石の奇跡」として話題になりました。



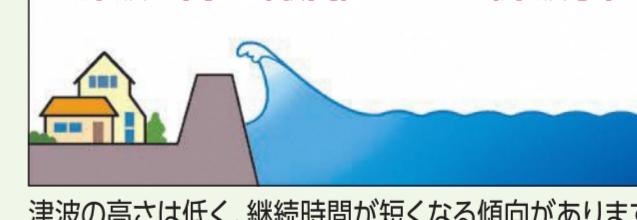
日本海側の津波の特徴

富山県で想定されている断層型地震による津波は、太平洋側で発生する海溝型地震による津波(東日本大震災など)に比べ、小さな規模の津波になると言われています。日本海側の津波の特徴を正しく理解し、津波に備えましょう。

日本海側の津波

呉羽山断層帯地震

- 地震の規模 マグニチュード7.4
- 津波の高さ(最高) 6.8m(津波水位)

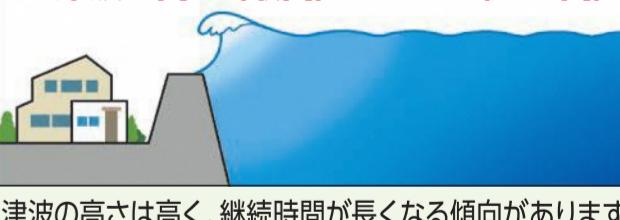


津波の高さは低く、継続時間が短くなる傾向があります。

太平洋側の津波

東北地方太平洋沖地震

- 地震の規模 マグニチュード9.0
- 津波の高さ(最高) 40.1m(週上高)



高岡市で観測された津波

高岡市では過去に大きな津波は観測されていません。しかし、日本海中部地震(1983年)のように日本海側の地域でも大きな津波が襲う可能性があります。根拠のない憶測ではなく津波について正しい知識を持ちましょう。

高岡市では津波ハザードマップに加え、各種災害に関する防災マップ(ハザードマップなど)を作成しています。
詳しくは高岡市公式ホームページをご確認ください。

<https://www.city.takaoka.toyama.jp/somu/bosai/bosai/hazard-map/index.html>